

ねずみのすもう

昔々あるところに、まずいおじいさんとおばあさんが住んでいました。二人の家には、小さなねずみがありました。

そのねずみは、となりのおやしきに住む大きなねずみとよくすもうをとっていました。でも、いつも大きなねずみになげとばされていました。

おじいさんたちは、ねずみのために大好きなおもちをついてあげました。

「さあ、これを食べれば力がつくぞ！」

ねずみは、おいしいおもちをたくさん食べて、元気いっぱいになりました。そして、大きなねずみにまけなくなりました。

「やったー、かった！かった！」

大きなねずみは、たずねました。

「どうやって、急に強くなったんだい？」

小さいねずみは、おじいさんたちがおもちをたべさせてくれたことをしょうじきにいいました。大きなねずみは、いいました。

「うちはお金持ちだけど、そんなものは食べさせてもらえないよ」

それを聞いていたおじいさんさんとおばあさんは、二ひきのねずみにおもちと赤いふんどうしを作ってあげました。

「ありがとう！おいしいね。」

大きなねずみは、おれいにたくさんの小ばんを持ってきてくれました。それから、にひきのねずみはすもうを仲良くとりました。大きなねずみがもってきた小ばんのおかげでおじいさんとおばあさんも、食べるものにこまらずすえながくしあわせにくらしました。